

令和 8 年度 仙台 BOSAI-TECH イノベーション創出促進事業  
自治体提供課題詳細

タイトル	山林・河川から市街地へのクマの侵入抑止
提供自治体名	宮城県仙台市
掲載期限	令和 8 年 8 月 21 日まで

1. 解決したい課題の背景

- ・ 仙台市では、近年クマの出没件数が増加しており、河川を渡って市街地へ侵入する個体や、住宅地に隣接する山林から出没する事例が確認され、市民生活への影響が大きくなっている。
- ・ 藪の刈払い、放任果樹の管理、電気柵の設置等の侵入防止対策を進めているが、地形や樹木の状況、対象範囲の広さ等から、市内全域に一律の対策を講じることは困難である。
- ・ 特に山林や河川に隣接する地域では、侵入経路が限定される一方で、電気柵の設置が難しいことや環境条件による制約が存在し、有効な対策の適用範囲が限られる状況にある。
- ・ また、AI カメラや各種センサー等の技術活用も想定されるが、電源確保、通信環境、誤検知、夜間・悪天候時の性能、維持管理コスト、地権者調整等の観点から、実装段階での課題が顕在化しやすい。

2. 実現したいこと

- ・ 市内全域に一律の対策を講じることが困難であることを前提に、山林・河川等から市街地に侵入する「経路」に着目し、重点的かつ効果的な侵入抑止対策を行いたい。
- ・ 現場条件（地形、樹木、電源、通信、地権者調整等）を踏まえた上で、恒常的に運用可能で、持続性のある対策であることを重視する。
- ・ 単なる抑止の有効性にとどまらず、設置性、維持管理性、コスト、耐候性（冬季環境含む）等を含めて総合的に評価可能な仕組みとしたい。
- ・ 対策の効果について、重点区域における侵入兆候や出没状況の変化等により

検証できることが望ましい。

3. 想定している技術（こだわらない場合はその旨を記載）

- ・ クマの侵入経路を特定・検知するためのセンサリング技術（カメラ、各種センサー等）
- ・ 地形条件に応じて展開可能な侵入抑止手法（物理的抑止、誘導・回避行動を促す仕組み等）
- ・ 低電力・耐候・通信確保等を考慮した実装技術

※上記に限定するものではなく、現場において実装可能な技術提案を広く求める。

4. 希望する実証時期・実証場所（現時点の想定）

- ・ 実証時期：令和8年9月～令和9年1月末（クマ出没が多い時期から冬季までを含め、効果および運用性を検証）令和8年は凶作ではない予想であり、秋口の懸念は昨年度のように高くはなく、出没が確実に多い夏季から利用できるとうい。
- ・ 実証場所：山林または河川から市街地に隣接する区域

5. その他制約事項・補足事項（関連ホームページ等）

- ・ クマの捕獲等は、法令や許認可を踏まえた対応が前提となる。
- ・ 設置物については地権者の同意が必要となる場合がある。
- ・ 電源・通信環境、維持管理体制、コスト等を含め、継続的な運用が可能であることが重要である。